

中野 頑慶（なかの・がんけい）

1、プロフィール

川柳作家。昭和7年より川柳入門。野辺地川柳社主幹を長く務め、上北郡、県南の川柳発展に尽くした。

<生没>

1915(大正4)年10月21日 ~ 2006(平成18)年3月27日

<代表作>

川柳句集『走馬燈』1976(昭和51)年刊行。

<青森との関わり>

弘前市に生まれ、後野辺地町に在住、郵便局員として主に県内に勤務、また同町の福祉行政に関わる。

2、作家解説

大正4年弘前市に誕生。本名慶三。郵便局職員として野辺地郵便局長代理、花巻郵便局長を務め、定年後焼山簡易保養センターに勤務。また野辺地町社会福祉協議会事務局長として野辺地町の福祉行政に関わる。

昭和7年杉山暁昭と出会い川柳入門。昭和9年「川柳隊」同人となり本格的に川柳に取り組む。昭和21年杉山暁昭が主幹を務めていた野辺地川柳社の後を引き継ぎ主幹となる。昭和28年より機関誌「常夜燈」を発刊。死去するまで野辺地川柳社の代表を務めた。また青森県川柳社同人としても活躍、特に上北郡と県南の川柳発展に尽力、多くの川柳人を育成した。昭和56年8月10日死去。享年66歳。

3、資料紹介

○『走馬燈』

図書

1976(昭和 51)年9月5日

190 mm × 136 mm

川柳句集。著者唯一の句集で著者のそれまでの全作品から 300 句をまとめたものである。作品は家族と自己の人生を見つめた暖かい句が多い。編集上野しん一、発行野辺地川柳社。